

平成 29 年度第 1 回学校運営協議会 議事録

神奈川県立市ケ尾高等学校

日 時：平成 29 年 6 月 2 日（金）
9 時 30 分～11 時 40 分
場 所：神奈川県立市ケ尾高等学校
中央棟 3 階会議室



出席者（敬称略）

【委員】

田口 亮（東京都市大学知識工学部教授） 中村浩樹（神奈川県立市ケ尾高等学 PTA 会長） 倉岡正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員） 鈴木秀幸（大場町在住地域住民） 仁井田尊史（横浜市資源循環局青葉事務所長） 福田晴好（翔凜高等学校特別講師） 田中多恵（NPO 法人 ETIC 次世代リーダー育成事業部、DRIVE インターン事務局マネージャー） 内川 隆（本校同窓会会長） 増淵広美（神奈川県立市ケ尾高等学校校長） 坂村 暁委員（横浜市立市ケ尾中学校長）は欠席

【事務局】

奥津賢一（神奈川県立市ケ尾高等学校副校長）、佐藤和彦（同 教頭）、川村裕幸（同 事務長）、伊藤裕（同 教諭）、北山直樹（同 総括教諭）、吉居英明（同 総括教諭）、佐藤 淳（同 総括教諭）、黒柳幸子（同 総括教諭）、伊藤和久（同 総括教諭）、熊谷ますみ（同 学校運営協議会委員担当）、近藤駿矢（同 学校運営協議会委員担当）

議 事（司会 副校長）

1 校長挨拶

皆様暑い中、ご出席いただきありがとうございます。高校におけるコミュニティ・スクールは全国的に見ても少なく、昨年度は全国で 25 校、県内では 5 校のみの指定でしたが、今年度、県内では昨年度の 5 校を含め、26 校が指定されました。

本日の第 1 回協議会では、コミュニティ・スクールと本校の概要・教育方針についてご理解いただくことが中心になるかと思いますが、ご承認をいただきたい事業もございます。時間の関係で熟議に至らない部分もあるかと思いますが、委員の皆様からご意見をいただくことで、この会議を有意義なものにしていきたいと思っています。

本県では、平成 31 年度迄には、全ての県立高校で「学校運営協議会制度」を導入し、

コミュニティ・スクールとして学校運営協議会に基づく学校運営を行っていくこととなります。この1年間、皆様からご意見をいただきながら、学校運営を進めてまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。

2 学校運営協議会委員に係る委嘱状 手交

校長より各委員に委嘱状を手交。

3 委員・関係職員自己紹介

4 学校運営協議会概要説明（校長）

資料「コミュニティ・スクールの取組みに向けて」により、「コミュニティ・スクールについて」、「学校運営協議会について」、「本校のコミュニティ・スクールについて」の3点を中心に説明。

本校は、今年度コミュニティ・スクールに指定されました。本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」では、協働で各主体が人づくりを進めていくための展開の方向として、「生涯にわたる自分づくりを支援する地域・家庭・学校をつなぐ教育環境づくり」を掲げています。また、「県立高校改革基本計画」の重点目標5では、神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入により、地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりを進めることとしています。このような背景から、本校におきましても、地域力を生かしたコミュニティ・スクールの普及と充実を図り、学校運営の活性化と教育力の向上に努めてまいります。

神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入には、学校運営協議会及び、それに係る各部会をおくことが必須となります。ここでいう「かながわらしさ」とは、かながわ教育ビジョンを具体化すること、学校運営協議会の設置により、学校を舞台とした地域主体の地方創生につなげること、高校生が主体的に地域へ参画すること、学校運営協議会の実質的活動を保障することをいいます。コミュニティ・スクールが活性化することにより、高校生、保護者、地域の方々、教職員それぞれに学校や地域の魅力が広がっていきます。

全国的に見ても、本校のような都市部にある進学校のコミュニティ・スクールの例はないと聞いています。先例はありませんが、だからこそ、本校だからできることをやっていきたいと考えています。本日は、コミュニティ・スクールの基本方針に関しての協議、審議をしていただき、また、本校の教育方針を承認していただき、委員の皆様が学校運営をサポートしていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

5 会長、副会長の選任

委員の互選により、会長に倉岡委員、副会長に増淵委員（校長）が選任された。

6 報告事項

(1) 学校の概要について（副校長）

「第1回 学校運営協議会報告事項」及びスライドによって説明。

本校は、昭和49年に創設された、歴史と伝統のある学校です。現在、1,185人の生徒が在籍しており、自主・自律の精神のもと、学習や特別活動に積極的に取り組んでいます。

教員は76人で、平均年齢は47.3歳となっています。本校の学校評価における目標設定の視点としては、「教育課程・学習指導」、「生徒指導・支援」、「進路指導・支援」、「地域等との協働」、「学校管理・学校運営」の5つを挙げています。

本校では、「カリキュラム・マネジメント」、「交通事故防止、登下校中のマナー向上」、「教育相談体制」、「高大接続改革（大学入学者選抜改革）」、「地域や保護者に信頼される開かれた学校づくり」、「生徒の確かな学力の向上」、「修繕費用の確保、清掃活動の徹底」、「安全対策、防災意識の向上」、「主体的・対話的で深い学び」等が喫緊に取り組むべき課題ととらえています。特に、最後の「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのか、我々も追究をしていく必要があると思います。私見ですが、スタンフォード大学のアントレプレナーシップ・トレーニングに見られるような、基礎的な知識をエンハンスさせて創造力・実践力を磨くような手法が一例かと考えます。そのような学びを本校の生徒に提供するため、ぜひ皆様にご協力・ご助言・ご指導をいただきたいと思います。よろしく願います。

7 審議事項

(1) 学校教育計画及び学校目標について（副校長）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料1～3によって説明。

本校では、「社会の中核たる人材」を育成することを学校教育目標に掲げ、生徒一人ひとりが学び高め合うことができる教育活動の実践を通し、豊かな人間性・社会性を育み、バランスのとれた人間形成を図ってまいりました。今後はさらに、自ら課題を発見し解決するための「思考力」・「判断力」・「表現力」等の育成と、主体的に学ぶ意欲を高めるための不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組みます。

今年度の目標設定につきましては、視点の1から5それぞれについて「1年間の目標」、「具体的な目標」、「評価の観点」を資料2に掲載しています。

本校の教育リソース（資源）としては、「地域との連携・共有」、「PTAとの連携」、「大学等との教育連携」、「卒業生による支援」、「同窓会からの支援」等を想定しています。学校運営協議会をはじめとして、本校関係者や外部の人材に本校の事業に参画していただくことで、本校での学びを深めていきたいと思っております。

(2) 教育課程の編成について（北山総括教諭）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料4～7によって説明。

授業確保については、平成28年度の1年次をみると、45分授業で年間34～38週となっていますが、今年度は50分授業で年間32～36週とし、「35週1,750時間」の目標に近づけています。組織的な授業改善の取組みについては、授業改善に向けての教科会、授業見学週間、教科横断型研修会、授業公開などを通し、教員個々のレベルアップを図ります。

今年度は、昨年度の「授業力向上ワーキングチーム」をさらに発展させ、管理職及び8名の教員による「授業力向上研究チーム」を立ち上げました。昨年度までの計画であった「市高 将来プロジェクト」の成果を継承し、職員個々の授業力の向上及び職員のコンセンサスを図りながら、本校の生徒にふさわしい授業研究を、研究チームとともにカリキュラム開発グループとしても推進していきます。

(3) キャリア教育の推進について（伊藤裕教諭）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料8～13によって説明。

平成28年度第41期卒業生では、14名の国公立進学者を送り出すことができました。一方、私立大学進学者は、昨年度と比べると、進学者の実数はほぼ変わらず、現役合格率は若干ですが、上昇しています。しかし、延べ人数はかなり減っているというのが現状です。原因のひとつとして、文科省による大学定員の厳格化により、各大学の合格者数が特に都市部で大幅に減少した影響を受けたものと思われます。また、確かな学力と、ボーダーを突き抜ける力を身につけさせないと進路実現が難しいことも痛感しました。

1年次から毎年スタディーサポートを受験させていますが、年々、学力到達ゾーンがレベルアップする傾向があり、今年度入学の44期生は、スタディーサポート導入以来、最もよい結果を出しています。平日及び休日の自宅学習の時間が、学校生活が進むにつれ減る傾向がありますが、44期生は減らさないように指導していきたいと思えます。

入学から卒業までの36か月を、キャリアに関する生徒の「歩み」ととらえ、「36歩」という指導マニュアルを作成しました。このマニュアルにより、月ごとのきめ細かい指導を行い、確実な進路実現につなげていきます。また、現中3生から適用される「大学入学共通テスト（仮称）」に向けた進路支援計画もすでに進めています。

(4) 学校組織の編制について（副校長）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料14によって説明。

学校組織・職員構成について前述しているため、資料の紹介のみ。

(5) 生徒会活動等について（佐藤淳総括教諭）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料15、16によって説明。

年間の主な生徒会の活動ですが、4月に新入生歓迎会、各学期に球技大会、9月に体育祭及び文化祭、また、5月と3月に生徒総会を開催しています。どの行事も生徒会が中心とな

り、生徒が主体的に運営活動をしています。

5月に実施した生徒会役員選挙は、昨年度からの継続的な取組みになりますが、選挙権年齢が18歳まで引き下げられたことを踏まえ、選挙の疑似体験ができるよう、区役所より投票箱や記載台を借りて本格的に実施しました。

部活動は、15の運動部、17の文化部、2つの同好会が、年間を通じて主体的に活動しています。また、年に2回、部活動総点検を行い、活動場所や部室回りの安全点検をしています。

(6) 生徒指導及び教育相談の体制について（伊藤和総括教諭）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料17、18によって説明。

生徒指導のキーワードは、生徒への「自主・自律」を促すこととしており、日常的な指導に加え、定期的に頭髪・服装指導、交通安全指導、駐輪指導等を行っています。

教育相談体制について、本校では、教育相談コーディネーター養成講座受講修了者が5名在籍し、3校1グループの拠点校になっています。また、年間を通じて定期的にスクールカウンセラーに訪問していただいており、昨年度の相談件数は、生徒37件、保護者5件、教職員17件でした。特に気になる生徒については、管理職・担任・教科担当・教育相談担当等で構成されるケース会議を開催し、情報の共有、対応についての協議を行っています。昨年度は年間で7回実施しました。

(7) 予算執行、施設及び設備の管理・整備について（事務長）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料19～21によって説明。

昨年度の支出は、事業経費、人件費を合わせて768,884千円でした。職員配置状況、業務実施状況、業務運営に関する評価は資料のとおりです。

今年度実施予定の主な整備、修理工事は、プール流し給水配管更新工事、グラウンド天蓋ネットウインチ交換工事、電気室高圧機器交換工事、ハンドボールコートLED投光器設置工事、南棟トイレ改修工事となっています。参考として、県全体の施設再整備の考え方と基本的方向性を示した「県立学校施設再整備計画（新まなびや計画）」を資料として加えましたので、ご覧ください。

(8) 平成29年度年間行事予定について（吉居総括教諭）

「第1回 学校運営協議会審議事項」資料22によって説明。

授業時数を確保するため、球技大会等の行事の日数や内容を精査したり、定期試験の日程を短くしたりすることで、「35週1,750時間」に近づけることができました。

(9) P T Aの活動について（吉居総括教諭）

P T Aが作成した「1分でわかる！市ヶ尾高校P T A」によって説明。

平成28年度は、「明るく、楽しく、わかりやすく」というスローガンのもと、会員の方々が無理のない範囲で参加できるような活動を行いました。委員会は、懇親会の開催や大学見

学バスツアー等を担当する「学年委員会」、主として広報誌の発行を担当する「広報委員会」、花壇の花植えや水遣りを担当する「環境委員会」があります。また、現役生徒及び卒業生の父親で構成される「おやじの会」もあり、校内の修繕や文化祭での豚汁うどんの提供、キャリアアップ講演会の講師等で、学校を支援していただいています。

(10) その他

特になし。

《質疑応答》 ：委員 学校

入試の際、男女の比率は問わず、入試の成績で選考しているのか、それとも、男女でそれぞれ枠を設けて選考しているのか。また、クラス編制は、どのように行っているのか。

男女を問わず本校の公表している基準に基づいて選考している。クラス編制については、芸術選択や男女バランスを配慮しながら編制し、2年次からは進路に向けた選択科目の組み合わせによって編制している。

保護者や地域の住民の授業見学については、一定の期間内のみで行っているのか、それとも随時受け付けているのか。

保護者に向けて行う行事として、「学校へ行こう週間」というものがあり、この期間中に授業や部活動の様子を見学していただいている。

コミュニティ・スクールについては、学校の本来業務の負担にならないように行ってほしい。また、コミュニティ・スクールの運営に関して、どれだけ多くの生徒が関わっていくとよいのか、数値目標を設定すべきではと考える。地域との関係が強いというのは感じられるが、参加する生徒が少ないのはどうかと思う。どれだけの生徒に、どのような力を身につけさせるかを、もう少し考えてほしい。何%の生徒が参加したか、数値的に実効性を持たせることが必要である。

本日も、進路公開室において、希望生徒を対象に、学校マネジメントコンサルタントで教育評論家の妹尾昌俊氏からキャリアアップのための講演をしていただくが、部活動等で忙しい学校生活の中、なかなか生徒も参加できない実態がある。参加した生徒が別の機会に全校生徒に伝えられるような機会を設けることを計画している。

コミュニティ・スクールの導入に合わせ、ただ行事に参画するだけでなく、一つひとつの取組みをとおしてどのような力を身に付けさせていくのかを明確にしていきたい。

就職を希望する生徒が少ないのに驚いた。生徒たちは明確な目標を持って大学進学をめざしているのか。

ほとんどの年で、就職を希望する生徒が1、2名はいるが、今年は全くいなかった。ただ大学に進学するだけでなく、その先の職業選択を視野に入れ、何を学びに行くのか、何をしに行くのか等、大学に進学する意義を見いだせる指導を続けていきたい。

学校運営の基本方針について、すべて承認。

8 授業・施設見学

9 事務連絡等

以上